

国語辞典における語構成要素の扱いについて

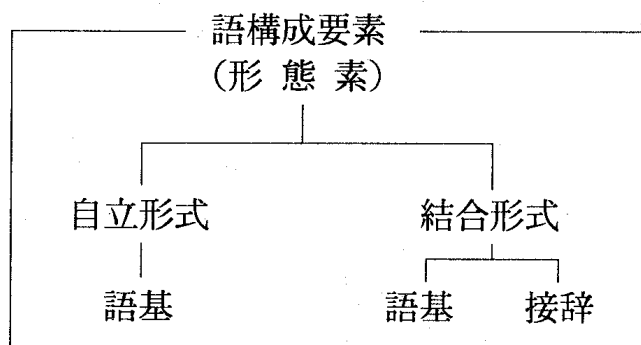
山下喜代

キーワード

国語辞典, 接辞, 造語成分, 立項, 品詞表示

1. はじめに

日本語における語の構成要素は一般に下に示したように分類することができるが、複合と派生の二つの造語法を比較すると、現象としての複合のほうが注目されやすく、自立形式の複合が語構成分析の対象としても取り上げられることが多い。



しかし、「接辞」および国語辞典において「造語成分」あるいは「造語要素」と呼ばれている非自立的な語基を含めて「結合形式」の語構成要素を考えると、接辞性字音語基の造語力の強さは言うに及ばず、和語にも非常に強い造語力を発揮するものがある。さらに近年は、結合形式の外来語が語構成要素としての力を強めていることも指摘されている¹⁾。以上の点から見ても、これら結合形式の語構成要素はさらに研究が進められるべき対象と言える。小稿は、今後結合形式の言語単位を対象として取り上げ研究を進めていくために、データベース作成の目的で行っている国語辞典を

資料とする語彙調査の報告である。小稿においては、国語辞典における接辞と造語成分の違いが明確ではないことから、調査対象としてはこれらを結合形式の語構成要素という大きな枠でくくり同一に扱うことにする。そして、これら結合形式の語構成要素が国語辞典において、どのように扱われているかを「見出し語の立項」と「品詞表示」の二つの観点から分析し、その問題点の洗い出しと整理を行う。さらに、これらの作業を通して得られた結果を基にして、これら語構成要素の性格を考察するためのいくつかの視点について述べることにする。

このような研究は、非自立的な語構成要素の枠組みを作り、それらを個別に、あるいは共通性を持ったグループとして捉え、その性格を形態・意味・造語機能などの観点から考察し記述するための基礎作業と言える。

そしてこれらの基礎作業を通して得られた資料を基にして、個々の結合形式の言語単位について、その特徴が明らかにされ記述されるなら、それらは国語辞典の記述の充実に、さらには日本語の接辞辞典などの作成にも資するものになると考えている。

2. 調査対象と方法

本調査は「三省堂国語辞典第4版」と「小学館新選国語辞典第7版」の比較を中心にして、さらに1990年以降に刊行または改版された小型国語辞典6種と広辞苑第4版および日本国語大辞典を加えた計10種類の国語辞典を対象とする。表1は調査対象とした国語辞典の一覧である。〔 〕は略称を表す。

〔三国〕と〔新選〕を資料として、それぞれの辞典において接辞か造語成分の表示のある見出し語を抽出した。その結果、〔三国〕から異なり語

1) 国語研(1972)『新聞の語彙調査』p.12において、外来語が語構成要素としてもふえていることが予想できると述べられている。また、『三省堂国語辞典第4版』の見出し語では、山下(1994.a) p.76表1によると、造語成分のうち外来語が全体の12.4%、前部分になるものでは26.8%を占めている。同様に接辞については、山下(1994.b) p.382表2によると、接頭語の13.6%、接尾語の2.6%が外来語である。

数1388語（延べ語数1426語），〔新選〕から異なり語数880語（延べ語数896語），合計異なり語数1525語の結合形式の語構成要素が得られた．ここでいう延べ語数とは，ひとつの見出し語に対して，接辞と造語成分など複数の品詞表示があった場合，それらを別々にカウントした数を表している．小稿では，こうして得られた1525語を対象に，〔三国〕と〔新選〕が接辞や造語成分を見出し語としての立項や品詞表示においてどのように扱っているかを調査し，収録状況を分析する．さらにいくつかの語を取り上げ，立項・品詞表示について，他の8種類の国語辞典を加えた10種類の国語辞典における扱いの違いを調べ，国語辞典における語構成要素を取り扱う上での問題点を整理する．そして，それらの問題点を踏まえ，国語辞典等において接辞や造語成分の扱いはどうあるべきかという点について，私見を述べることにしたい．なお，以下では接辞や造語成分などの結合形式の語構成要素を「非自立形態」と呼ぶことにする．

表1 調査対象国語辞典一覧

小学館日本国語大辞典	〔日国〕	1972.12	438,357語
三省堂例解新国語辞典第3版 林四郎・野元菊雄・南不二男・国松昭編	〔三例〕	1990.12	50,000語
講談社国語辞典第2版 阪倉篤義・林大監修	〔講談〕	1991.11	76,000語
岩波書店広辞苑第4版 新村出編	〔広苑〕	1991.11	220,000語
三省堂国語辞典第4版 見坊豪紀・金田一京助・金田一春彦・柴田武・飛田良文編	〔三国〕	1992.2	73,000語
旺文社国語辞典第8版 松村明・山口明穂・和田利政編	〔旺文〕	1992.10	80,000語
小学館現代国語例解辞典第2版 林巨樹監修	〔現例〕	1993.1	60,000語
集英社国語辞典 森岡健二・徳川宗賢・川端善明・中村明・星野晃一編	〔集英〕	1993.2	92,000語
小学館新選国語辞典第7版 金田一京助・佐伯梅友・大石初太郎・野村雅昭編	〔新選〕	1994.1	83,308語
学研新国語辞典初版 金田一春彦編	〔学研〕	1994.4	65,000語

3. 調査結果

3-1 非自立形態の品詞表示の方法

国語辞典においては、品詞欄に接頭語や接尾語あるいは造語成分という表示がなされている。語の構成要素（形態素）であるこれら接辞や造語成分を語レベルの動詞その他の品詞と同一に扱うことの是非が問われるが、ここではその問題に深入りするのは避け、それぞれの国語辞典が非自立形態の品詞表示をどのようにしているかを比較する。

国語辞典の品詞表示に、「接頭語・接尾語」の用語が登場するのは大槻文彦の『言海』（1889）からと言える²⁾。また、「造語成分」という表示は、『三省堂改訂明解国語辞典』（1952）が最初である³⁾。『改訂明解国語辞典』の「この辞書のつかいかた」の中では、造語成分について「これは接辞とはなりきっていないもので、しかも単語とは認めにくい一類をすべてこの中に含めた。」と述べられている。つまり、接辞とはやや性格の異なる語構成要素に注目し、それらを一類にまとめ提示する新しい試みを示したわけである。その後、他の国語辞典の品詞表示にも影響を与え、今日まで引き継がれている。

しかし、10種類の国語辞典の中で、接頭語・接尾語の表示を採用していないものは皆無であるが、「造語成分」という品詞表示をしないものはいく

2) 松井（1973）では、国語辞書の品詞表示の変遷が、明治17年（1884）刊行の『ことばのその』から昭和47年（1972）の『新明解国語辞典』まで33種の国語辞典を取り上げ表にまとめられている。それによると、品詞表示というべきものが付されたのは『ことばのその』（近藤真琴編）が最初である。その後に続く1888年『ことばのはやし』（物集高見編）、1888～1889年の『和漢雅俗いろは辞典』（高橋五郎編）を含めこれら三種は『言海』に先行する辞書であるが、品詞表示は特殊であり、品詞表示において後続の国語辞典の範となったのは『言海』であるという。

3) 前述松井（1973）の表において、『三省堂改訂明解国語辞典』（1952）から「造語成分」の表示が出現する。この点については、当時『改訂明解国語辞典』の編集に携わっておられた小林保民氏によって確認することができた。『改訂明解国語辞典』の見出し語「造語成分」は以下のように記述されている。「複合語を構成する、上位・下位のことば。例、社会科＝社会＋科。（上位の成分で一番造語力の弱いものは接頭語、下位のそれは接尾語）」ここでいう「造語力」とは複合語の意味を支える力のことを指している。つまり「造語成分」について、ここでは接辞を含めた広い意味の語構成要素として捉えた記述になっている。

つか見られる。表2は10種類国語辞典が、「接頭語・接尾語・助数詞・造語成分」などの品詞表示をどのように採用しているか、その状況を示したものである。「○」は採用、「×」は不採用を表す。接尾語の一種の助数詞については、「助数詞」と表示するものと、「接尾語」と表示して語釈の中で「ものを数えることば」などの説明を加えるものがある。「*」付きの「造語成分」についてはいささか注釈が必要である。[日国]は「造語成分」とはいわず「語素」という。また「語素」の表示は和語と外来語のみで、字音語には「字音語素」の表示をしている。[三例]は説明はないが、やはり「造語」の表示は和語と外来語のみで字音語には用いていない。[学研]は外来語にのみ「造語」の表示をする。以上のように、10種類のうち4種類は「造語成分」の表示を採用していない。

次に、字音語基の扱いが国語辞典によって異なるので以下にまとめてみる。表3は10種類の国語辞典において、接辞的用法を含めた結合用法の字音語基がどのように品詞表示されているかを示したものである。「接辞」は、「接頭語」と「接尾語」の表示を意味し、「造語」は「造語成分」や「造語要素」を意味するものである。「表示なし」は見出し語として立項されているが、品詞表示がないことを表している。国語辞典の非自立的な字

表2 10 種国語辞典の品詞表示

国語辞典	接頭	接尾	助数	造語
[日国]	○	○	×	○*
[三例]	○	○	×	○*
[講談]	○	○	○	×
[広苑]	○	○	×	×
[三国]	○	○	×	○
[旺文]	○	○	×	×
[現例]	○	○	×	×
[集英]	○	○	○	○
[新選]	○	○	×	○
[学研]	○	○	○	○*

表3 結合用法字音語基の品詞表示

[日国]	接辞／字音語素
[三例]	接辞／表示なし
[講談]	接辞／表示なし
[広苑]	接辞／表示なし
[三国]	接辞／造語
[旺文]	接辞／表示なし
[現例]	接辞
[集英]	接辞／造語
[新選]	接辞／造語
[学研]	接辞

音語基の品詞表示は、大きく分けて三つのタイプがある。まず、接辞あるいは造語（語素）と表示するもの。次に、接辞と表示するか見出し語として立項はするが品詞の表示をしないもの。そして、接辞という品詞表示ししないものである。

〔日国〕では、接辞あるいは字音語素、またはその両方で表示されている。〔三例〕ではごく一部の接辞を除き、大部分の字音語基が「漢字項目」としてまとめて見出し語に立項されているが、そこでは品詞の表示はなされていない。〔講談〕は、接辞と表示しているもの以外の字音語基には品詞表示をしていない。しかし、語釈の中で「接辞的」という説明を加えている場合がある。〔現例〕は、接辞の表示のあるもの以外の字音語基は見出し語として立項せずに、巻末の漢字表で扱っている。漢字表には品詞表示はされていない。〔集英〕は、非自立的な字音語基はすべて「造語」と表示し、その中で接辞的用法といえるものについてさらに「接字」の表示を加えている。〔新選〕は、接辞や造語と表示されたもの以外の結合専用字音語基は見出し語に立項せず、巻末の漢字解説で提示している。漢字解説には品詞表示はない。〔学研〕はすべて接辞という表示で一括している。

以上に述べたように、非自立形態の品詞表示の方法は国語辞典によってかなり相違のあることが分かる。小稿では、調査結果の分析を通して、国語辞典において非自立形態を接辞と造語成分に分けて品詞表示することの有効性について考えてみることにする。

3-2 『三省堂国語辞典第4版』と『新選国語辞典第7版』の比較

このように国語辞典によって非自立形態の品詞表示の方法は異なっているが、その中で〔三国〕と〔新選〕の接辞や造語成分の表示方法は近似していると言える。ここでは、この二つの国語辞典が接辞や造語成分をどのように定義し品詞表示に使用しているのかを比較してみる。以下に二つの国語辞典において「接辞」と「造語成分」がどのように説明されているか、その語釈を示す。

三省堂国語辞典 第4版

〈造語成分〉

- ① 複合語を構成する要素となる単語。例、「学級/委員」「委員/会」「すすり/あげる」などの、/でくぎられたもの。
- ② 単語を構成する要素となる、それだけでは独立して使われないことば。接頭語・接尾語をふくむ。例、「不/健/全」「ほの/めく」などの/でくぎられたもの。造語要素。

▽この辞書では、単語と結びつく、接頭語・接尾語に近いものと約束する。例、「総/二階」「北極/星」などの「総」「星」。

〈接頭語〉

単語の前について、意味をそえ、また調子をととのえる要素。接頭辞。例、「お顔」「か細い」の「お」「か」。

〈接尾語〉

単語のあとについて、意味をそえ、また品詞を変える要素。接尾辞。例、「高田さん」「春めく」の「さん」「めく」。

小学館国語辞典 第7版

〈造語成分〉

複合語をつくりあげる一つ一つの要素。「春風」「飛行機」の「春」「風」「飛行」「機」など。

参 考 この辞典では、特に、それだけでは単語となることはできないが、単語の実質的な意味を表す成分となる言語単位のことをいう。「雨水」の「雨（あま）」「エターミナル」の「エア」など。

〈接頭語〉

ある語の上につき、意味をそえたり、調子をととのえたりするもの。「みころ・こぼしり」などの「み・こ」など。接頭辞。

〈接尾語〉

語の下について意味やはたらきをそえ、別の語をつくるもの。接尾辞。「しろさ・文化的」などの「さ・的」など。

これら「接辞」と「造語成分」の説明を見てもその違いはあまり明確ではないが、以下では実際に「三国」と「新選」において、どのような非自立形態が見出し語として立項され、どのように品詞表示されているかという点を中心に分析を進めていく。

3-2-1 「三国」と「新選」の量的構造

まず、二つの国語辞典の量的構造の概略を述べることにする。

表4は、それぞれの辞典における接辞と造語成分の語数と非自立形態の語数に対する比率を示したものである。表4から、接辞は「新選」が多く、造語成分は「三国」が多いことが分かる。接辞の語数は「新選」のほうが約150語ほど多いが、これは「三国」がこれらの語を立項していないということの意味するものではない。次項3-2-2で述べる見出し語の立項状況から見て、かなりのものが「三国」においては、造語成分などとして立項されていることが予想され、両者の造語成分の数の違いが注目される。「三国」は非自立形態素を積極的に造語成分として立項していると言えそうである。

表4 接辞と造語成分の語数と比率

	三 国		新 選	
接頭語	103	7.2%	146	16.3%
接尾語	346	24.3%	459	51.3%
小 計	449	31.5%	605	67.6%
前造語	346	24.3%	181	20.2%
後造語	631	44.2%	109	12.2%
小 計	977	68.5%	290	32.4%
合 計	1426	100.0%	895	100.0%

表5 語種別語数と比率

	三 国		新 選	
和 語	404	28.3%	347	38.8%
漢 語	878	61.6%	438	48.9%
外来語	142	10.0%	106	11.8%
混種語	2	0.1%	4	0.5%
合 計	1426	100.0%	896	100.0%

表5の語種別語数と比率を比べると、収録語数の違いは漢語で顕著であり、それに比べ和語はその差が大きいとは言えない。また外来語の差も漢語に比べるとそれほど大きくはない。語種別の比率を見ても「新選」では、和語は「三国」より10%多くなっているが、漢語は約10%ほど少なくなっている。漢語、特に結合専用の字音語基をどのように扱うかは、国語辞典によって大きく異なる点である。「新選」は、結合専用字音語基を見出し

語として立項せず、巻末の漢字解説で扱っている。漢語が少ないのは、この違いによると思われる。

表6で接辞について語種別の違いを見てみると、[三国] は接頭・接尾ともに外来語の比率がやや高い。また、接頭語では和語が漢語より高いが、接尾語では逆になる。これに対し [新選] では、和語と漢語の比率は接頭語も大きな差はなく、接尾語はほぼ同比率である。

表6 接辞の語種別語数と比率

	接 頭 語				接 尾 語			
	三 国		新 選		三 国		新 選	
和 語	48	46.6%	72	49.3%	140	40.5%	226	49.2%
漢 語	41	39.8%	67	45.9%	196	56.6%	225	49.0%
外来語	14	13.6%	7	4.8%	9	2.6%	4	0.9%
混種語	0		0		1	0.3%	4	0.9%
合 計	103	100.0%	146	100.0%	346	100.0%	459	100.0%

表7 造語成分の語種別語数と比率

	前接造語成分				後接造語成分			
	三 国		新 選		三 国		新 選	
和 語	61	17.6%	39	21.5%	155	24.6%	10	9.2%
漢 語	199	57.5%	62	34.3%	442	70.0%	84	77.1%
外来語	86	24.9%	80	44.2%	33	5.2%	15	13.7%
混種語	0	0	0	0	1	0.2%	0	0
合 計	346	100.0%	181	100.0%	631	100.0%	109	100.0%

表7は、造語成分の語種別語数と比率を示したものである。前接の造語成分は、[三国] では外来語が和語より高くなっており、その比率は、和語<外来語<漢語の順であることがわかる。[新選] では外来語が漢語をしのぎ、比率は、和語<漢語<外来語の順になる。後接の造語成分では、[三国] は和語の比率が上がり、外来語<和語<漢語の順になる。[新選] は和語<外来語<漢語の順になっている。

先に述べたように、両者は語構成要素の扱いがほぼ同じと言える国語辞典でありながら、造語成分の立項数においてかなりの差があるのは、まさに何を「造語成分」と考え立項するかという立場の違いによる。その点に

については、次項で再度取り上げることにする。

3-2-2 非自立形態の立項

〔三国〕か〔新選〕のどちらかに収録されている非自立形態1525語（異なり語数）のうち、1090語（71.5%）が共通して立項されており、435語（28.5%）が一方でのみ立項されている。

共通する1090語と一方のみの435語、および合計1525語の見出し語の語種別語数を示したのが表8である。さらにその比率をグラフで示した。

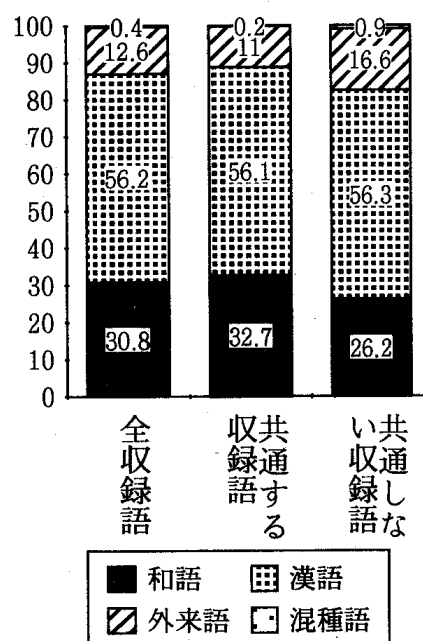
グラフで全収録語の比率と比べると、共通する収録語については、語種別の比率にほとんど差がないと言ってよい。共通しないものに関しては、やはり外来語の割合が増えている。共通せずに一方にのみ収録されている435語は、〔三国〕にのみ収録されている語が369語、〔新選〕にのみ収録されている語が66語である。一方にのみ収録されている語の語種別内訳を示したものが表9である。〔新選〕で収録されていない外来語が、〔三国〕で60あまり立項されており、非自立形態の外来語を積極的に収録する姿勢がうかがえる。

表8 「共通する収録語」と「共通しない収録語」語種別語数 「共通する収録語」と「共通しない収録語」比率

	全収録語	共通する語	共通しない語
和 語	470	356	114
漢 語	857	612	245
外来語	192	120	72
混種語	6	2	4
合 計	1525	1090	435

表9 共通しない収録語内訳

語 種	新選のみ	三国のみ
和 語	40	74
漢 語	15	230
外来語	9	63
混種語	2	2
合 計	66	369



資料1「共通しない収録語の例」に、それぞれ一方の国語辞典にしか収録されていない語例を60語ずつ挙げた。非自立形態を語種と承接の位置によって分けて表示し、それぞれの辞典で挙げられている語例と品詞表示を示した。これら共通しない収録語のうち、特徴的なものをまとめ例を挙げると以下ようになる。

〈[三国] にのみ収録されている語の特徴〉

- ① 連濁などの音韻変化を起こしたもの。

～心^{ごころ}・～揃^{そろ}い・～好^ずき・～便^{だよ}り・～盛^{さか}り・～敵^{がたき}・～甲斐^{が い}・～日和^{びより}

- ② 構成要素が二単位以上のもの。

～たさ（こわいもの見たさ）・～つ方（昼つ方）・三大～・一昨昨～

- ③ 俗語・方言など。

～ちん（＝ちゃん）・～んち（＝にち）・～んち（ぼくんち）・～ぼ（薩摩っぼ）

- ④ 漢語・外来語における省略形。

～潜（潜水艦）・～裁（裁判所）・～コン（国際コン/マイコン/エアコン等）・～タク（ぼろタク）

〈[新選] にのみ収録されている語の特徴〉

- ① 古語。

いささ～・ささら～・～く（惜しけくもなし）・～らく

- ② 単位を表す語。

デカ～・テラ～・ナノ～・ピコ～・ヘクト～

- ③ 非自立的な複合語基。

可塑～・臨地～・三段～・主動～・～箇日・～有半

それぞれの特徴は以上のようにまとめることができるが、これは例えば[三国]の特徴として挙げたような非自立形態が[新選]に収録されていないということを意味するものではない。また、逆に[新選]の特徴として挙げたものについても同様のことが言える。しかし、これらの特徴的な非自立形態がそれぞれの国語辞典で際立っているということは言える。

山下(1994.a)では、[三国]で立項されている945語の「造語成分」についての調査結果が報告されている。それによると、945語の造語成分の中に、連濁・母音交替などの音韻変化を起こした異形態が71語(7.5%)あり、構成単位が二単位以上のものが63語(6.7%)ある。また、「後部分」になる漢語と外来語の「造語成分」に省略形が多く見られ、外来語では「前部分」になるものにも省略形が出現することが報告されている。

以上に述べたように、収録語の採否という点から見ると、[三国]と[新選]はおおよそ70%が共通しており、30%が共通していないと言える。そして、この共通していない30%にその国語辞典の特徴的な非自立形態の立項を見ることができたわけである。しかし、70%にあたる共通するものを非自立形態の立項という点から見ると事情はいささか異なる。それは、二つの国語辞典がこの70%にあたる語をともに非自立形態、すなわち「接辞」や「造語成分」として立項しているとは限らないからである。次項では、これら共通して立項されているものについて、品詞表示の異同を分析していく。

3-2-3 非自立形態の品詞表示

共通して収録されている1090語のうち、「接辞」「造語成分」などの品詞表示が[三国]と[新選]で一致しているものは460語(42.2%)、一致していないものは630語(57.8%)である。品詞表示が一致しているものは、接辞が276語、造語成分が180語、接辞と造語成分の両方で表示されているものが4語である。

表10は、品詞表示が一致しているものの例を語種別に接辞と造語成分に分け、承接位置ごとにまとめて示したものである。

接辞と造語成分の違いを考えるうえで、これら品詞表示の一致する非自立形態の性格を観察することは有効と思われる。調査対象の国語辞典の数が多ければ一層その違いが明確につかめると思うが、これら二種類の国語辞典の調査結果だけでも、接辞と造語成分に区別された語彙の性格の相違は比較的是っきりと表れており、特に和語においてその違いが顕著である。

まず、和語の接頭語はいわゆる「無意味形態素」⁴⁾ と言える「いけ～・か～・け～・ど～」などがある。そして量的に多いのが、「打ち～・押し～・立ち～・取り～・犬～・くそ～」など、自立用法の持つ本来の意味から転義して、ある種のニュアンスを添える働きをする接辞に変化しているものである。これに対し、前接する造語成分は、「天^{あま}～・雨^{あま}～・稲^{いな}～」など音韻変化を起こしたものと、「ふた～・み～・いつ～・む～・や～」などの数詞でほとんどが占められている。これらは語基相当の明確な意味を保持している結合専用の形態素である。

同様に、和語の接尾語と後接する造語成分を比較すると、接尾語は、「～がる・～びる・～さ・～たげ」などの無意味形態素や「～つく・～がらみ・～くらい」などの本義から意味的に変化しているものが多い。また、造語成分は「～がれ・～どき・～がた」などのように連濁して形態上は非自立的であるが、意味的にはもとの語基の意味をそのまま保持しているものが多いと言える。

次に、品詞表示の一致していない630語について表示の揺れのパターンを示すと以下ようになる。「接辞と造語成分」および「名詞と造語成分」

〈品詞表示不一致の型〉		の表示の揺れで73%あまりを占めている。
接辞－造語成分	187 (29.7%)	これは、接辞と造語成分の違いと造語成分と名詞に代表される語基の違いが明確ではないことによる。
名詞－造語成分	274 (43.5%)	
名詞－接辞	79 (12.5%)	
接辞－接辞・造語 (造語－接辞・造語)	42 (6.7%)	
その他の対立	48 (7.6%)	
合 計	630 (100.0%)	資料2に品詞表示不一致の例を60語挙げた。これは、語種別に20語ずつ非自立形態を示し、[三国]と[新選]それぞれの品詞表示と語釈

4) 宮島達夫 (1973) で使われた術語である。p.15「それ自身では積極的な意味をもっておらず、つねに他の特定の (有意味的な) 要素と結びついてあらわれる要素」と定義されている。例に挙げた接頭語は『言海』において「発語」と品詞表示されたもので、接頭語の中でも語彙的意味の希薄な形態素であるが、機能的には強調や美化の働きを有するものである。

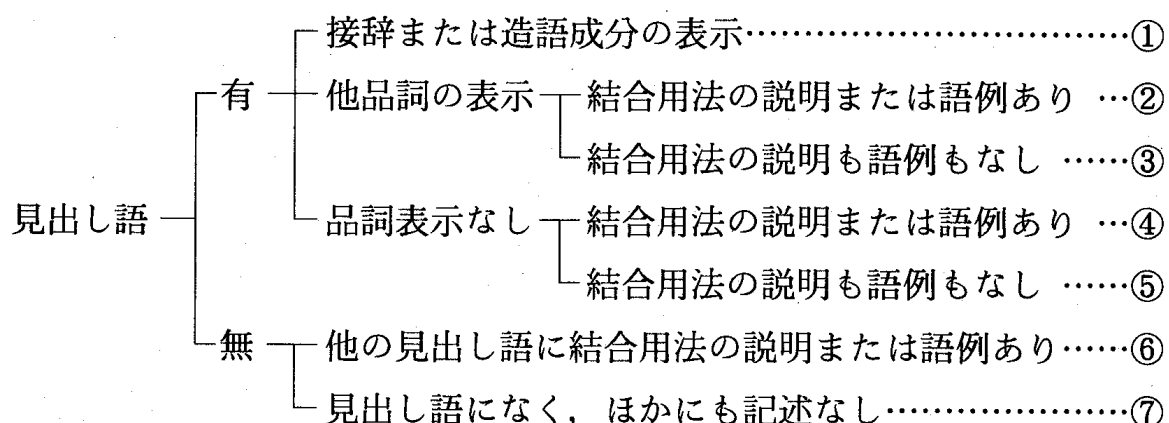
の中で挙げられている語例を示したものである。例えば「今^{いま}～」は、[三国] [新選] とともに「今浦島」を語例として挙げているが、[三国] では造語成分、[新選] では接頭語の表示がされている。また「～合う」は、二つの辞書で同じ語例「助け合う・話し合う」が挙げられているが、[新選] は接尾語とし、[三国] は動詞「合う」の用法のひとつとして挙げ、非自立形態の扱いはしていない。このように、語釈の中で同様の語を例として挙げている場合でも品詞の表示が異なることがある。

表10 [三国] と [新選] の接辞と造語成分の例

和	接頭	押し～（押し通す） ひん～（ひんめくる） 犬～（犬死に） 薄ら～（うすらあかり） でも～（でも学者） 豆～（豆台風）
	接尾	～つく（がたつく） ～や（ばあや） ～くんだり（山奥くんだり） ～がらみ（総選挙がらみ） ～そこそこ（千円そこそこ）
語	造語成分	荒～（荒野） 船～（船火事） 金～（金だらい） 白～（白梅） 空～（空出張） 共～（共かせぎ） ぼろ～（ぼろもうけ） ～枯れ（立ち枯れ） ～時 ^{どき} （花見時） ～どころ（聞きどころ） ～泣かせ（親泣かせ） ～群 ^{むら} （ひとむら） ～詣で（大蔵省詣で）
	漢	接頭
語	接尾	～寺（円覚寺） ～然（学生然） ～味（野性味） ～年（国際婦人年） ～加減（ばかさ加減） ～前後（十人前後） ～放題（食い放題）
	造語成分	悪～（悪天候） 最～（最上位） 私～（私生活） 猛～（猛反対） 渡～（渡米） 一大～（一大発見） 一昨～（一昨年度） ～漢（熱血漢） ～給（時間給） ～狂（マージャン狂） ～博（万国博） ～士（弁護士） ～以内（十日以内） ～以西（小田原以西）
外	接頭	アンチ～（アンチミリタリズム） ネオ（～ネオロマンチズム） パン～（パンアメリカン） ポスト～（ポストオリンピック）
	接尾	～チック（漫画チック） ～レス（エンドレス）
来	造語成分	オート～（オートドア） ハイ～（ハイジャンプ） テクノ～（テクノ社会） フル～（フルセット） ～アワー（ゴールデンアワー） ～キラー（巨人キラー） ～デー（防火デー） ～マン（証券マン） ～ワーク（トスワーク）

3-3 10種の国語辞典における立項と品詞表示

これら品詞表示の異同は、10種類の国語辞典を対照してみると一層明確になる。10種類の国語辞典における非自立形態の立項と品詞表示の方法は以下のようにまとめられる。



まず、見出し語の有無で二分される。見出し語として収録されている場合、品詞表示のされ方と非自立形態としての扱いは、①から⑤まで五とおりに分けられる。①は国語辞典がその見出し語を非自立形態としてはっきりと提示している場合である。②と③は名詞や動詞など他の品詞表示がされているものである。その中でいわゆる接辞的用法を含めた結合用法、すなわち語構成要素としての用法があることが明示されているかどうかで②と③に分けられる。④と⑤は立項されているが品詞表示のない場合で、特に字音語基に見られる扱いである。その語形が見出し語にない場合でも他の語形の見出し語の語釈の中で取り上げられていることがある。それは⑥で、連濁などの音韻変化を起こしたものが元の語形の見出し語の中で扱われている場合などである。⑦はその国語辞典では全く取り上げられていない場合である。

資料3の表に、語種と承接位置別に任意に抽出した60語について、10種類の国語辞典における見出し語の立項状況と品詞表示を具体的に示した。

この表は、その見出し語を非自立形態すなわち接辞あるいは造語成分として表示している国語辞典が何種類あるかを度数で表し、10から1までの度数順に配列したものである。項目「度」が度数を示す。また、「種」は

語種を表し、Wが和語、Kが漢語、Gが外来語である。品詞表示で使われている記号は、以下に示すようにそれぞれ前述した見出し語の立項と品詞表示の②から⑦の分類に対応している。

②=(○)	③=(×	④=(●)	⑤=(▽)	⑥=(▼)	⑦=(-)
-------	------	-------	-------	-------	-------

例えば「取り～」は、10種類の辞典がすべて接頭語扱いをしていて、度数10である。「～^が掛け」も度数10であるが、8種類の国語辞典は接尾語の表示をしているが、[三国]と[集英]の2種は造語成分と表示している。度数が下がるほど非自立形態としての品詞表示の一致度が低いことを意味する。しかし、収録語としての一致度、すなわち見出し語として立項されている国語辞典の数が少ないことを表しているとは限らない。例えば、「～はくれる」は度数3であるが、10種類の国語辞典すべてで立項されている。これは、動詞の一用法として記述されているものが多いのである。また品詞表示は、辞書によって「接尾語」「造語成分」「動詞」と揺れが見られる。度数1の「～テク・～パン」は[三国]のみに立項されているもので、これらは見出し語としての認知度の低いものと言える。しかしその反面、見出し語としての認知度の低い非自立形態の集合は、それらを立項している国語辞典の個性を示すものと捉えることもできる。これに対して、「～フェース・～メール」は同じく度数1であるが、8種類の国語辞典が名詞扱いをしており、非自立形態としての認知度が低いものと言える。

「×

4. 立項と品詞表示における問題点

以上、国語辞典における非自立形態の扱いを立項と品詞表示という二つの観点から調査した。これらを通して明らかになった問題点を以下にまとめ、それに対する私見を述べることにする。

(1) 自立用法と結合用法の記述

先にも述べたように、自立語としての用法がある場合、結合用法について全く記述されない例が見受けられる。少なくとも語構成要素として機能する場合があることを示すために、語例は挙げておくべきである。また字音語基の中で、二字漢語の語構成要素としての例しか載せていないものがあるのも問題である。

(2) 構成単位数

どのような単位形を一つの非自立形態として立項するかという問題である。例を示すと、[三国]では「～さ（おもしろさ）」と「～たさ（こわいもの見たさ）」、「～加減（うつむき加減）」と「～さ加減（ばかさ加減）」がそれぞれ別の見出し語として立項され、接尾語と表示されている⁵⁾。これらは同一の見出し語の中で、意味・用法の異なるものとして記述することも可能であり、そのような扱いをする国語辞典の方が多い。しかし、例えば日本語学習者にとっては、一般的には一単位形と認め難い複合形態であっても、それが語構成要素として造語にあずかるとき、それぞれ異なる振る舞いをするものなら、それぞれが単位形として別個に提示されている方が学習上有益な情報となる⁶⁾。見出し語として立項するか否かはさらに検討を要するが、このような単位形が語構成要素として機能するという情報は辞書の語釈の中で積極的に記述されるべきことと言えよう。

(3) 異形態の立項

連濁や母音交替などの音韻変化によって語形が変わった異形態を別

5) 山下(1994.a)によると、[三国]の造語成分を構成単位数から見ると、一単位のもの圧倒的に多いが、二単位以上のものも6%余りあり、特に漢語に多く見られる。それらは形態的に多様で、和語の中には「～そのけ・～そのまま」のように結合対象語基と合成される単位が「語」のレベルを越えると思われるものもある。

6) 山下(1993)では、日本語教科書に出現する接辞的な漢語の中にも「～番目・～号室・～人兄弟」などの複合形態が一単位形として提出されていることが報告されている。

の見出し語として立項するかどうかという問題である。結合用法では必ず音韻変化の起こるもので、意味的にも変化や限定が起こるような場合は別の見出し語として立項するのも一つの方法であろう。しかし元の語形の見出し語の語釈の中でも、結合時の音韻変化の情報にふれる必要があるだろう。

(4) 省略形の立項

外来語の非自立形態の中には、「ポリ～〈ポリエチレン〉・～パン〈パンツ〉」のように原形より省略形の方が使用頻度が高いというものがある。また、漢語でも「～裁〈裁判所〉」や「～研〈研究所/研究会/研究室〉」など省略形が語構成要素として機能することの多いものがある。このような省略形を立項するか、あるいは原形を立項しその語釈の中で省略形の造語機能を記述するのが問題となる。

(5) 同一語か別語か

これは多義語の扱いの問題と言い換えることができる。例えば、[三国] と [新選] では、接尾語「～み」は次のように記述されている。

[三国] ーみ [味] (接尾) ①調合材料・(食品) の品数をかぞえることば。「七ーとうがらし」②感じさせるもの。感じ。味わい。「赤ー・黄色(キイロ)ー・真剣ー・野性ー」
③〔ふつうかな書き〕〔ある状態の〕ところ。部分。「深ー・弱ー」

[新選] ーみ [形容詞の語幹につく] ①場所・状態を示す。「深ー」
「赤ー」②〔古語〕(以下省略)

ーみ 【味】 ①料理で、調合の材料の品数をかぞえることば。
「七ーとうがらし」②味・趣の意。「醍醐ー」「人情ー」

以上のように、[三国] で同一語として扱っているものを [新選] では意味によって別語として立項している。和語の多義語において生じる問題である。

(6) 字音語の扱い

結合専用の字音語を見出し語として立項するか否かの問題である。本調査でも、立項している場合でも二字漢語の語例しか提示していないものがかなり見られることが分かった。接辞的な用法の提示として三字漢語や混種語などの複次結合語の例も必要であろう。

(7) 品詞表示の揺れ

資料3に示したように、国語辞典によって非自立形態の品詞表示には揺れが存在するが、これは非自立形態の認定と関係する。非自立形態と認定せずに、自立語の語釈の中で非自立的な用法にふれる立場をとるなら、その自立語の名詞や動詞などの品詞表示が非自立形態の品詞をも表すものとして提示されることになる。また、非自立形態と認定されると接辞や造語成分の表示がされる。非自立形態の認定はどのような基準によってなされているのか。個々の国語辞典ではそれぞれ基準が設けられ認定作業がなされていると思われるが、辞書の解説からは判然としない。しかし、形態上の非自立性と意味上の非自立性の二つの観点が指摘できる。形態上の非自立性とは、変音現象などで語形変化を起こしたものや結合専用の字音語基などが有する非自立性を意味している。

これに対して、意味上の非自立性とは、形態的には単独で用いられることもあり、自立性を有していると言えるが、自立語として機能する場合と意味的に相違が見られ、結合用法における意味では自立語として機能しないという場合の非自立性を表している。しかし、この意味上の非自立性には段階が想定でき、自立用法の意味を保持するものが国語辞典の中で非自立形態の扱いを受けている場合もある。山下(1994.a)では、[三国]の945の造語成分を調べた結果、自立語としての用法のあるものが、語種別に見てもそれぞれ40%前後あることが報告されている⁷⁾。この自立用法のあるもののうち、自立語の意味を保持しているものに品詞表示の揺れが生じる可能性がある。しかし、

意味上の非自立性を有するもの、すなわち自立語の意味から転義して語構成要素として造語にあずかるものについては、自立用法のあるものでも非自立形態としての品詞表示を明確にすべきと思われる。

(8) 接辞と造語成分の表示の区別

先にもふれたように、接辞と造語成分の違いは分明ではないが、合成語の意味を担う役割の軽重によると考えると、国語辞典の品詞表示において、接辞と造語成分を区別して表示することの有効性が問われることになる。「3-2-3非自立形態の品詞表示」でも述べたように、[三国]と[新選]の品詞表示で一致しているものは42.3%にすぎない。調査対象を増やせば当然一致度は下がることが予想される。さらに、一致しないもののうち、30%近くを接辞と造語成分の表示の揺れが占めている。これは、接辞と造語成分の境界が非常に曖昧であるため、国語辞典によって見解に相違が生じるからである。

このように、ある辞書を見ると「接辞」と表示され、また別の辞書を見ると「造語成分」と表示されているという場合が多く見られるような状況で、国語辞典において、ある非自立形態を「接辞」「造語成分」と区別して表示することにどれほどの情報価値があるのかいささか疑問を感じざるを得ない。むしろ、接辞といわゆる造語成分と呼ばれる語基には明らかに違う性格を持つものもあるので、それらを区別して考察していくことは重要な研究課題と言える。しかし、国語辞典に載せるべき情報としては、そのような区別よりも接辞と造語成分を非自立的な語構成要素として広く捉え、先に問題点として挙げたような事柄を考慮し、できるだけ詳しい情報を記述することのほうがより重要ではなかろうか。

7) p.84の表4によると、自立用法の有無の比率は、和語が37.9%と62.1%、漢語が45.4%と54.6%、外来語が42.7%と57.3%となっている。しかし、漢語に関しては、「高・私・使・右・打」など省略や特殊な場でのみ使用されるものが自立語として扱われている場合もある。それらは一般には結合専用語基とみなされることの多いものである。

5. 非自立形態の性格

上述したように、国語辞典の品詞表示の扱いとしては接辞と造語成分を区別することに対して疑問を呈したが、国語辞典によってこれら非自立形態の扱いにかなり大きな違いのあることは、非自立形態として一括した接辞や造語成分の性格の多様性に起因することは否定できない。結合形式の語構成要素を研究対象とする上では、これらの多様性をひとつひとつ解きほぐし、その性格を明確にしていくことが課題となる。ここでは、これまでの作業を通じて捉えられた、接辞や造語成分と呼ばれる非自立形態の性格を考える上でいくつかの視点を指摘し、それらの視点に立った非自立形態の分類を試みることにする。それは、このような分類をもとにしてそれぞれの非自立形態の性格の詳しい分析が可能になると考えるからである。

まず、非自立形態が有する「非自立性」について再考してみよう。この点は、「4. 立項と品詞表示における問題点」の「(7)品詞表示の揺れ」においても述べたが、「形態的非自立性」と「意味的非自立性」の二つがあることが指摘でき、それらはさらにそれぞれ二つに分けて捉えることができる。

「形態的非自立性」については、まず変音現象などで語形変化を起こしたことによってもたらされた「語形上の非自立性」が挙げられる。これらは、本来意味上は自立的であり、自立用法を有するものも多い。

次に、主に結合専用の字音語基や外来語語基のように意味的には明確な概念を表す形態素が有する非自立性として、語形変化によってもたらされた非自立性ではなく、普通は単独では用いられないという使用上の非自立性が考えられる。この「使用上の非自立性」は、通常は単独では用いられないものでも、ある場合に省略語や隠語として臨時的に単独で使用されることが有り得るので、絶対的性格とは言えない面もある。

以上に述べた非自立形態の例を示すと以下のようなになる。

語形上の 非自立形態	天(アマ)～・雨(アマ)～・稲(イナ)～・酒(サカ)～・白(シラ)～・ 船(フナ)～・金(カナ)～・上(ウワ)～ ～顔(ガオ)・～頭(ガシラ)・～枯(ガ)れ・～口(グチ)・～越(ゴ)え・ ～心(ゴコロ)・～高(ダカ)・～係(ガカリ)・～際(ギワ)
使用上の 非自立形態	一(ヒト)～・幼(オサナ)～・対～・追(ツイ)～・渡～・離～・ 黒(コク)～・主動～・積極～・セルフ～・プチ～・マイ～ ～敷(シキ)・～鬼(キ)・～馬(バ)・～人(ジン/ニン)・～海・ ～病・～同士・～マン・～デー・～イヤー・～アワー

「意味的非自立性」の一つは、その非自立形態自体がある概念を表すとは言えないような形態素が有する非自立性である。いわゆる「無意味形態素」の多くがここに含まれると思われるが、その形態素が全く意味を有していないということを表しているわけではない。それらの形態素は、語構成要素として造語にあずかるときに結合対象語基との結合によって意味の添加機能を発揮すると捉えられる。その添加される「意味」にはさまざまなレベルが想定でき、すべての非自立形態はなんらかの意味添加機能を有すると考える。

もう一つの「意味的非自立性」は、自立語として用いられることのあるもので、結合用法では単独で用いられるときの意味とは異なる意味になり、結合用法における意味では自立語としては機能しないという場合の「転義による非自立性」である。これらの意味的非自立性を有する非自立形態の例は以下に示す通りである。下線部が非自立形態である。

無意味 形態素	<u>いけ</u> 好かない・ <u>どえ</u> らい・ <u>か</u> 細い・ <u>け</u> だるい・ <u>さ</u> 迷う・ <u>て</u> 厳しい・ <u>つん</u> 裂く・ <u>ひん</u> めくる・ <u>もの</u> 悲しい・ <u>うら</u> 淋しい・ <u>ま</u> 南 格式 <u>ば</u> る・大人 <u>び</u> る・大人 <u>ぶ</u> る・暑 <u>が</u> る・血 <u>み</u> どろ・ほ <u>こ</u> りだらけ・ あれ <u>っ</u> ぽち・おもしろ <u>さ</u> ・汗 <u>ば</u> む・はな <u>や</u> ぐ・色 <u>め</u> く
転義による 非自立性	<u>姫</u> りんご・ <u>鬼</u> 検事・ <u>烏</u> 貝・ <u>犬</u> 侍・ <u>草</u> 野球・ <u>馬</u> 鹿受け・ <u>ポ</u> ケットカメ ラ・ <u>シル</u> バーパワー・ <u>突</u> き進む・ <u>腐</u> れ縁 <u>引</u> き受け手・ <u>石</u> 油王・ <u>焚</u> き上がる・ <u>焚</u> き立て・ <u>つけ</u> っぱなし・働 <u>き</u> <u>づ</u> め・鳴 <u>き</u> くさる・言 <u>い</u> 立てる・学 <u>者</u> くさい・出 <u>世</u> 頭・泣 <u>き</u> 虫

非自立形態は、このような形態的あるいは意味的、またはその両方の非自立性を有するものと言えるが、この非自立性から接辞と造語成分を考えると、その性格に形態的非自立性を有するものは結合形式の語基すなわち造語成分に、そして意味的非自立性を有するもの、または意味的かつ形態的非自立性を有するものは接辞に分類することができる。国語辞典における接辞と造語成分の扱いを見ると、和語に関してはかなりこの分類があてはまると言えるが、漢語と外来語については、国語辞典において接辞として扱われているものの多くは、造語成分扱いでよいことになりそうである。

さらに非自立形態の性格は、「品詞決定機能」と「意味添加機能」という二つの造語機能の視点から考察することができる。

非自立形態の中には、「嫌がる・やさしさ・女っぽい」などのように、それ自体が動詞や名詞あるいは形容詞などの品詞性を有して語として機能することはないが、造語にあずかるとき、その結合対象語基に新たな品詞性を付与し合成語の品詞を決定する働きを示すものがある。これらは、「元気づける・うるさ型・燃えやすい」などのように、それ自体の品詞性が想定でき、語として機能できるものとは異なる非自立形態として分類できる。一般的に、合成語の品詞はその後項要素の品詞性によって決定されると言える。その中で、前項要素で否定の意味を添える「不～・無～・未～」などは、結合対象語基の品詞性を変えて合成語を形容動詞にする機能のある非自立形態としてグループ化できよう。以下に分類の例を示す。

品詞性を付与する機能のあるもの

動 詞 性	～かかる・～がる・～ばる・～びる・～ぶる・～ばむ・～づく・～やぐ・～めく・～る・ ～まくる・～つく・～かねる
形 容 詞 性	～い・～しい・～ばい・～らしい・～がましい・～めかしい・～たらしい・～たい・ ～にくい・～がたい・～づらい
形容動詞性	不～・無～・未～・～げ・～ぎみ・～そう・～がち・～だらけ・～みどろ・～ずくめ・～的・ ～性・～風
名 詞 性	～さ（暑さ）・～け（眠気）・～み（面白み）・～こ（なれっこ）・～め（効きめ）
副 詞 性	～に（特に）・～と（堂々と）・～ぐるみ（家族ぐるみ）・～ごと（皮ごと）・ ～上（業務上）・～ざま（続けざま）

表11 非自立形態の意味分類例

前 接 非 自 立 形 態	
形 容	大～・おお～・ビッグ～/超～・極～・絶～・最～/ウルトラ～・スーパー～・スペシャル～/こ～・さ～・小～・リトル～・ミニ～
指 定	同～・本～・当～/前～・先～・元～/次～・来～/他～・別～/現～・今～/後～・あと～/先先～・前前～・翌翌～・来来～
待 遇	御～・お～・おん～・み～/貴～・拙～・弊～/くそ～
動 作	うち～・ぶち～・ぶっ～ぶん～/とり～・とっ～/ひき～・ひっ～/増～・減～/帰～・渡～/滞～・駐～/離～・脱～
否 定	不～・無～・未～・非～/反～・抗～・排～・アンチ～/ノン～・ノー～
後 接 非 自 立 形 態	
人 間	～者・～もの/～員・～官・～士・～師・～職・～マン/～手・～て/～がかり・～役・～番/～家・～屋/～達・～方・～共
具 体 物	～品・～物・～もの/～材・～料/～衣・～服・～着/～器・～機・～計/～がお・～づら・～フェース/～書・～証/～券・～票
時 間	～時・～どき・～ごろ/～ちゅう・～じゅう/～以前・～以後・～以降/～がてら・～しな・～ぎわ/～アワー・～デー・～イヤー
場	～所・～場・～ば・～どころ/～店・～屋/～室・～舎・～棟・～堂/～路・～道・～線・～みち/～課・～部・～科・～系・～類
形 容	～ばい・～らしい・～くさい/～がましい・～たらしい・～めかしい/～ぎみ・～がち/～にくい・～がたい・～づらい
状 態	～だらけ・～みどろ・～ずくめ/～ばる・～びる・～ぶる/～ばむ・～づく・～やぐ・～めく/～どおし・～ばなし・～づめ
程 度	～内外・～前後・～程度/～たらず・～あまり・～そこそこ/～おき・～ごと/～以上・～以下・～以内・～以外・～未満
待 遇	～氏・～殿・～君・～様・～さん・～ちゃん・～ちゃま/～兄・～姉/～め・～や/～女・～嬢/～翁・～老/～殿・～院・～房
抽象概念	～事・～ごと/～上・～下/～型・～形/～的・～性・～式・～風・～流・～調・～様/～さ・～味・～気/～化・～視
動 作	～そこなう・～そびれる・～はぐれる/～はじめる・～だす/～おわる・～きる・～おおす・～納める/～まくる・～つづける
数 量	～め・～番目・～位・～号/～回・～度/～個・～件・～名・～枚・～台・～軒・～冊/～頭・～匹・～羽・～尾/～キロ・～トン

先にも述べたように、すべての非自立形態はなんらかの意味を有し結合対象語基への意味添加機能があると考えられる。しかし、添加される意味は結合対象語基の意味内容に変化を加える程度のものから、その非自立形態が明確な概念を表すものまでかなりの幅がある。非自立形態の意味・用法を考える上では、それらを結合対象語基に添加する意味によって分類することが必要になるだろう。接辞については、菅野（1964）、玉村（1985）、山下（1994.b）などで分類が示されている。非自立形態についても種々の分類が可能と思われるが、小稿では表11に示したように、添加する意味によって、前接する非自立形態を5に、また後接するものを11に分類した。さらにそれらを類義関係や対義関係にあると思われるものを「/」で小グループに分けて示した。このようなグループ分けによって、非自立形態を個別に観察し、その意味・用法を記述することが可能になると考えている。

6. おわりに

小稿では、国語辞典を資料として非自立的な語構成要素がどのように扱われているかを立項と品詞表示の二点に焦点を絞り調査分析した。そして、国語辞典において語構成要素を扱う上で考慮すべき8項目の問題点を指摘した。その上で、国語辞典において非自立形態を接辞と造語成分に分けて表示することの有効性について疑問を呈し、語構成要素としての性格を用例も含めて明確に記述することの重要性を述べた。さらに、非自立形態の性格を分析する視点として「形態的非自立性」と「意味的非自立性」また、「品詞決定機能」と「意味添加機能」の4つを挙げ、これらの視点に立った非自立形態の分類の例を示した。そして、このような分類をもとにして、個々の語構成要素の性格を分析することが可能になるという考えを述べた。

このような分類は、何を接辞とし何を造語成分とするかといった国語辞典における品詞表示や意味記述を考える上での基礎作業と位置づけられる。小稿では、語構成要素の分類例を示したのみで、実際の意味・用法の分析方法についてはふれることができなかった。この点については、稿を改め

論じることにはしたい。

参考文献

- 菅野 宏 (1964) 「接頭語・接尾語」『講座 現代語6』(明治書院)
- 国立国語研究所 (1972) 『電子計算機による新聞の語彙調査(Ⅲ)』(国語研報告42 秀英出版)
- 玉村文郎 (1985) 『語彙の研究と教育(下)』(国立国語研究所)
- 西尾寅弥 (1965) 『口語文法講座6 用語解説編』
- 野村雅昭 (1977) 「造語法」(『岩波講座日本語9 語彙と意味』)
- 北條正子 (1973) 「主要接辞・助数詞一覧」(『品詞別日本文法講座10』明治書院)
- 松井栄一 (1973) 「辞書における品詞表示」(『品詞別日本文法講座10』)
- 宮島達夫 (1973) 「無意味形態素」(国語研『ことばの研究論集4』)
- 森岡健二 (1994) 『日本文法体系論』(明治書院)
- 山下喜代 (1993) 「日本語教科書における『接辞的漢語』」
(『早稲田日本語研究1』早稲田大学国語学会)
- 山下喜代 (1994.a) 「語の構成要素—国語辞典における『造語成分』について—」
(『早稲田大学日本語研究教育センター紀要6』)
- 山下喜代 (1994.b) 「接辞分類表の作成—三省堂国語辞典第4版を資料として—」
(『講座日本語教育 第29分冊』早稲田大学日本語研究教育センター)

資料1. 共通しない収録語の例

No.	非自立形態	よみ	種	三国語例	三国
1	生け～	いけ	W	生けだい・生けはまち	造語
2	幼～	おさな	W	①おさなすがた ②おさな遊び	造語
3	追っ～	おっ	W	追っばらう	接頭
4	固～	かた	W	固ねり	造語
5	酒～	さか	W	①酒だる②酒太り	造語
6	千～	ち	W	ちたび・ちひろ	造語
7	長～	なが	W	長電話・長わずらい	造語
8	走せ～	はせ	W	はせ集まる・はせもどる	造語
9	吹っ	ふっ	W	ふっ切れる・ふっとはず	接頭
10	～合い	あい	W	①空合い②義理合い ③意味合い	造語
11	～形	かた	W	たまご形	造語
12	～頃	ごろ	W	①五月頃②食べ頃	造語
13	～好き	ずき	W	外出好き・酒好き	造語
14	～便り	だより	W	花便り・出版便り	造語
15	～ち	ち	W	おれっち・てめえっち	接尾
16	～作り	づくり	W	①粘土作り②国作り	造語
17	～端	ぱ	W	ひとりあたま百円ぱ	接尾
18	～ぶら	ぶら	W	銀ぶら・道ぶら	造語
19	～待ち	まち	W	会議待ち・ひより待ち	造語
20	一昨昨～	いっさくさく	K	一昨昨日・一昨昨年	造語
21	環～	かん	K	環太平洋	造語
22	巧～	こう	K	巧バンド	造語
23	殺～	さつ	K	殺ダニ剤	造語
24	次次～	じじ	K	次次号	造語
25	西～	せい	K	西軍・西岸	造語
26	単～	たん	K	単細胞	造語
27	軟～	なん	K	①軟口蓋②軟文学	造語
28	廃～	はい	K	廃工場・廃ビル	造語
29	毛細～	もうさい	K	毛細血管・毛細根	造語
30	～院殿	いんでん	K	真浄院殿	接尾
31	～宮	きゅう	K	①エリゼ宮②十二宮	造語
32	～孔	こう	K	排水孔	造語
33	～志	し	K	東京名物志・戦国志	造語
34	～進	しん	K	北東進する台風・三進	造語

No.	非自立形態	よみ	種	三国語例	三国
35	～走	そう	K	①五十メートル走 ②二走	造語
36	～答	とう	K	百問百答	造語
37	～年生	ねんせい	K	①一年生②五年生 ③多年生草木	造語
38	～話	わ	K	出版十話	造語
39	イタリアン～	イタリアン	G		造語
40	オーラル～	オーラル	G		造語
41	ジャン～	ジャン	G	ジャン卓・ジャンさち	造語
42	パイロット～	パイロット	G	①パイロットランプ②パイロット生産 ③パイロットフィルム	造語
43	プチ	プチ	G	プチトマト・プチナイフ	造語
44	プレ～	プレ	G	プレハブ・プレオリンピック	接頭
45	ボイルド～	ボイルド	G	ボイルドエッグ	造語
46	メンズ～	メンズ	G	メンズコーナー・ メンズショップ	造語
47	リトル～	リトル	G	①(小さい)小 ②リトルジェントルマン	造語
48	ローヤル～	ローヤル	G	(王の, 王室の, ロイヤル.)	造語
49	～イヤー	イヤー	G	オリンピックイヤー	造語
50	～コン	コン	G	①国際コン②生コン③エアコン ④ラジコン⑤パソコン⑥ソーアコン ⑦マザコン⑧駅コン⑨合コン ⑩ミスコン⑪ボディコン⑫シスコ ン	造語
51	～ジャッカー	ジャッカー	G	(ハイジャックの犯人)	造語
52	～タク	タク	G	ぼろタク	造語
53	～テク	テク	G	ギターテク・財テク	接尾
54	～トラ	トラ	G	①じゃりトラ ②4トラテレコ	造語
55	～ナイズ	ナイズ	G	アメリカナイズ・ 外国ナイズ	接尾
56	～パン	パン	G	ミルクパン・フライパン	造語
57	～ヒッター	ヒッター	G	ピンチヒッター・ ロングヒッター	造語
58	～メン	メン	G	ジャズメン	造語
59	～さ加減	さかげん	M	いさか加減といったらない	接尾
60	～分の	ふんの	M	三分の二	造語

資料1. 共通しない収録語の例

No.	非自立形態	よみ	種	新選語例	新選
1	他し	あだし	W	あだしおとこ	造語
2	徒し	あだし	W	あだしなさけ	造語
3	うそ〜	うそ	W	うそ寒い	造語
4	かき〜	かき	W	空かかき曇る	接頭
5	かっ〜	かっ	W	かっ飛ばす	接頭
6	ささ〜	ささ	W	さざ波・ささにごり	接頭
7	しち〜	しち	W	しちめんどうだ	接頭
8	た〜	た	W	たなびく・たやすい	接頭
9	はい〜	はい	W	はいづ・はいやる	接頭
10	曾〜	ひ	W	→ひい ひまご	接頭
11	べた〜	べた	W	べたつく	造語
12	愛〜	まな	W	愛弟子・愛娘	接頭
13	継〜	まま	W	①継母②継姉	造語
14	胸〜	むな	W	胸さわぎ・胸ぐるしい	造語
15	両〜	もろ	W	①もろうで②もろびと ③もろ声	接頭
16	〜片食	かたき	W	一回の食事の量	接尾
17	〜片食	かたけ	W	→かたき	接尾
18	〜種	ぐさ	W	お笑いぐさ	接尾
19	〜ぐむ	ぐむ	W	涙ぐむ	接尾
20	〜こける	こける	W	笑いこける	接尾
21	〜言	こと	W	泣き言・ひとり言	造語
22	〜ざし	ざし	W	おもざし・まなざし	接尾
23	〜しい	しい	W	たどたどしい	接尾
24	〜しお	しお	W	染め物で染め汁に ひたす度数を表す語	接尾
25	〜十路	そじ	W	五十路・六十路	接尾
26	〜そやす	そやす	W	ほめそやす	接尾
27	〜だつ	だつ	W	紫だつ・かしらだつ	接尾
28	〜だてる	だてる	W	順序だてる・ 証拠だてる	接尾
29	〜っこ	っこ	W	①かけっこ②取りっこ ③わかりっこ	接尾
30	〜っこい	っこい	W	あぶらっこい	接尾
31	〜っこない	っこない	W	聞こえっこない	接尾
32	〜っぱい	っぱい	W	①水っぱい ②あきっぱい	接尾

No.	非自立形態	よみ	種	新選語例	新選
33	〜ぼち	ぼち	W	=ぼち→ぼっち	接尾
34	〜結ひ	ゆひ	W	→ゆい	接尾
35	〜よそい	よそい	W	①衣服・道具など—そろい のものをかぞえる語 装束 —よそい②器に盛った飲 食物をかぞえる語	接尾
36	客〜	かく	K	客年・客冬	造語
37	可塑〜	かそ	K	可塑性・可塑剤	造語
38	〜御〜	ぎょ	K	御影・御遊出御	接頭接尾
39	三段〜	さんだん	K	三段構えの対策	造語
40	主動〜	しゅどう	K	主動部隊	造語
41	芳〜	ほう	K	相手の物ごとを 尊敬する言い方	造語
42	臨地〜	りんち	K	臨地実験・臨地調査	造語
43	令〜	れい	K	令息・令夫人	接頭
44	〜蓋	がい	K	かさなどを数える語	接尾
45	〜箇日	かにち	K	百箇日	接尾
46	〜才	さい	K	①体積の単位 ②容積の単位	接尾
47	〜爵	しゃく	K	公爵・伯爵	造語
48	〜株	しゅ	K	草や木をかぞえることば	接尾
49	〜眠	みん	K	ちょう・かななどの幼虫が休眠す る回数をかぞえることば	接尾
50	〜有半	ゆうはん	K	五年有半	接尾
51	シー〜	シー	G	シーフード・シーレーン	造語
52	デカ〜	デカ	G	デカメートル・ デカリットル	造語
53	テラ〜	テラ	G	一兆倍をあらわす, T	造語
54	バース〜	バース	G	バースコントロール・ バースデー	造語
55	フット〜	フット	G	フットボール	造語
56	ヘクト〜	ヘクト	G	百倍を表す	造語
57	マグネチック〜	マグネチック	G	マグネチックスピーカー	接頭
58	ミゼット〜	ミゼット	G	ミゼットカメラ	造語
59	〜代目	だいめ	M	六代目菊五郎	接尾
60	〜ん坊	んぼう	M	=んぼ①けちんぼう・お こりんぼう②かくれんば う・通せんぼう	接尾

資料2. 品詞表示の不一致例

No.	非自立形態	よみ	種	三国	三 国 語 例	新選	新 選 語 例
1	～合う	あう	W	動詞	助け合う・話し合う	接尾	話し合う・助け合う
2	赤～	あか	W	造語	赤はじ	接頭	赤はだか
3	～上がり	あがり	W	造語	雨上がり・七つ上がり・役人上がり	接尾	学生あがり
4	～中り	あたり	W	名詞	食あたり・暑さあたり	接尾	食あたり・暑気あたり
5	～辺り	あたり	W	造語	きょうあたり・山本君あたり	接尾	そこらあたり・五時あたり
6	～当たり	あたり	W	造語	一日当たり	接尾	ひとりあたり百円
7	～余り	あまり	W	造語	五日あまり	接尾	百円あまり
8	～熱れ	いされ	W	名詞	人(の) いされ	造語	人いされ・草いされ
9	幾～	いく	W	接頭	幾人・幾百・幾山川	造語	幾円ですか・幾重にも
10	今～	いま	W	造語	今浦島	接頭	今浦島
11	初～	うい	W	造語	初陣・初孫	接頭	初産・初陣
12	～上	うえ	W	造語	葵の上・父上	接尾	母上・兄上
13	～受け	うけ	W	造語	郵便受け・軸受け	名詞	郵便受け・軸受け
14	～薄～	うす	W	接頭 造語	うすむらさき・うすぼんやり /期待薄・気乗り薄	接頭	うすみどり・うすあかるい・ うすきみがわるい
15	うら～	うら	W	造語	うらさびしい	接頭	うらがなしい
16	小～	お	W	造語	小川・おぐらい・お止みなく	接頭	小川・おやみなく降る
17	大～	おお	W	造語	大グマ・大人数・大さわぎ・ 大づかみ・大旦那	接頭	大海原・大雨・大いばり・ 大叔父・大づかみ・大御所
18	～納める	おさめる	W	造語	舞いおさめる	動詞	うたいおさめる
19	～掛	かかり	W	造語	用度掛・改札掛	接尾	改札掛・発送掛
20	～かたがた	かたがた	W	副助	ごあいさつかたがたお願いまで	接尾	見舞かたがたたずねる
21	～委	い	K	造語	共闘委	接尾	中労委
22	～以遠	いえん	K	造語	大阪以遠	名詞	名古屋以遠
23	一～	いち	K	造語	一問題・一私人・一見識	接頭	一職員・一見識
24	～員	いん	K	造語	会社員	接尾	地方公務員・調査員
25	～院	いん	K	接尾造語	崇徳院・正倉院・美容院	接尾	光明院・一条院
26	右～	う	K	造語	右心室・右岸	名詞	極右
27	～炎	えん	K	造語	盲腸炎	接尾	盲腸炎
28	遠心～	えんしん	K	名詞	遠心分離・遠心力	造語	遠心分離機・遠心力
29	各～	かく	K	連体	各団体	接頭	各新聞社の記者
30	可燃	かねん	K	名詞	可燃性・可燃物	造語	可燃性

資料2. 品詞表示の不一致例

No.	非自立形態	よみ	種	三国	三国語例	新選	新選語例
31	～気味	ぎみ	K	造語	太り気味・あせり気味	接尾	荒れ気味・当惑気味
32	抗～	こう	K	造語	抗独・抗貧血作用・抗ガン剤	接頭	抗ヒスタミン剤
33	国際～	こくさい	K	名詞	国際関係・国際競争力	造語	国際空港・国際結婚
34	～居士	こじ	K	造語	円満居士・慎重居士	名詞	慎重居士
35	再再～	さいさい	K	造語	公定歩合再々引き下げ	副詞	再々注意を受ける
36	～三昧	ざんまい	K	造語	読書三昧・ぜいたく三昧 の生活・刃物三昧	接尾	読書三昧・ぜいたく三昧・ 刃物三昧におよぶ
37	～家	か	K	造語	小説家・法律家・専門家	接尾	音楽家・努力家
38	～至極	しごく	K	副詞	残念至極だ	接尾	めいわくしごく
39	該～	がい	K	連体	該問題	接頭	該病院・該資料
40	～外	がい	K	造語	区域外	接尾	領域外・問題外
41	アウト～	アウト	G	名詞	アウトポケット・アウトコース	造語	アウトオブデッド・アウトコース
42	アフター～	アフター	G	名詞	アフタースキー・アフターファイブ	造語	アフターケア・アフターサービス
43	アンダー～	アンダー	G	名詞	アンダーウェア・アンダーシャツ	造語	アンダーウェア・アンダーシャツ
44	ウインド～	ウインド	G	名詞	ウインドサーフィン	造語	ウインドサーフィン
45	～ウーマン～	ウーマン	G	名詞	スポーツウーマン	造語	キャリアウーマン
46	ウルトラ～	ウルトラ	G	接頭	ウルトラナショナリズム	造語	ウルトラモダン
47	エアー～	エアー	G	名詞	エアーブレーキ	造語	エアーカー・エアーブレーキ
48	ガーデン～	ガーデン	G	名詞	ガーデンパーティー	造語	ガーデンパーティー
49	ガール～	ガール	G	名詞	ガールフレンド	造語	ガールスカウト・ガールフレンド
50	カントリー～	カントリー	G	名詞	カントリークラブ	造語	カントリークラブ・ カントリーミュージック
51	キロ～	キロ	G	名詞	キロヘルツ・キロメートル・キログラム	造語	キロメートル・キログラム
52	クイック～	クイック	G	名詞	クイックモーション・クイックサービス	造語	クイック攻撃・クイックモーション
53	グラス～	グラス	G	造語	グラススキー・グラスボート	名詞	グラスファイバー
54	コイン～	コイン	G	造語	コインスナック・コインランドリー	名詞	コインランドリー・コインロッカー
55	コマーシャル～	コマーシャル	G	造語	コマーシャルベース	名詞	コマーシャルソング・ コマーシャルメッセージ
56	～サイド	サイド	G	造語	日銀サイドの見解	名詞	市民サイドの見方
57	～フェース	フェース	G	名詞	ベビーフェース	造語	ボーカーフェース・ニューフェース
58	セミ～	セミ	G	接頭	セミドキュメンタリー調・セミヌード	造語	セミクラシック・セミドキュメンタリー
59	テクニカル～	テクニカル	G	形動	テクニカルターム	造語	テクニカルターム
60	ノー～	ノー	G	接頭	ノーネクタイ・ノーマネー・ ノーパーキング	造語	ノーネクタイ・ ノースモーキング

資料3. 10種国語辞典における非自立形態の立項と品詞表示の対照

No.	非自立形態	よみ	種度	三国	新選	三例	集英	学研	講談	広苑	旺文	現例	日国	語	例
1	取り～	とり	W 10	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	とりあつかう・とりすてる	
2	～掛	がけ	W 10	造語	接尾	接尾	造語	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	たすきがけ・行きがけ・起きがけ・八がけ・三人掛け	
3	～くんだり	くんだり	W 9	接尾	接尾	—	造語	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	山奥くんだりまで行く	
4	新～	あら	W 8	造語	造語	—	造語	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	あら所帯・あら湯	
5	小～	さ	W 8	接頭	接頭	—	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	小枝・小男鹿	
6	ネオ～	ネ	G 8	接頭	接頭	—	造語	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	ネオロマンチズム	
7	マルチ～	マルチ	G 8	接頭	接頭	—	造語	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	マルチスクリーン・マルチ人間	
8	メガ～	メガ	G 8	名詞○	接尾	接頭	造語	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	百万倍を表す	
9	～柄	がら	W 8	造語	接尾	接尾	造語	接尾	接尾	名詞○	接尾	接尾	接尾	土地柄・作柄	
10	～だつ	だつ	W 8	—	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	紫だつ・かしらだつ	
11	～層倍	そうばい	K 8	接尾	接尾	—	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	何層倍も・薬九層倍	
12	～かき	かき	W 7	—	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	空がかき曇る	
13	～度	ど	K 7	接尾	接尾	接頭	接頭	接頭	接頭	名詞○	接尾	接尾	接尾	一日二度の配達	
14	今～	いま	W 6	造語	接頭	接頭	造語	接頭	接頭	名詞○	接尾	接尾	接尾	今浦島	
15	た～	た	W 6	—	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	たなびく・たやすい	
16	悪～	あく	K 6	造語	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	悪天候・悪送球	
17	～面	づら	W 6	造語	接尾	接尾	—	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	馬面・紳士面をする・帳面づら	
18	～丸	がん	K 6	接尾	接尾	▽	造語	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	六神丸	
19	副～	ふく	K 5	造語	接頭	名詞×	造語	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	副社長・副収入	
20	未～	み	K 5	接頭	接頭	接頭	造語	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	未開発・未処理	
21	パン～	パン	G 5	接頭	接頭	—	—	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	パンアメリカン	
22	～紙	し	K 5	造語	接頭	▽	造語	接尾	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	西洋紙・機関紙・三紙を購読	
23	脱～	だつ	K 5	造語	接頭	▽	造語	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	脱工業化・脱サラリーマン	
24	男～	お	W 4	造語	名詞×	接頭	名詞×	接頭	接頭	名詞○	接尾	接尾	接尾	男滝 (オタキ)	
25	唐～	から	W 4	名詞○	造語	—	造語	接頭	接頭	名詞○	接尾	接尾	接尾	唐織物	
26	オート～	オート	G 4	造語	造語	—	造語	接頭	接頭	名詞○	接尾	接尾	接尾	オートドア・オートフォーカス	
27	～選	せん	K 4	造語	名詞×	名詞×	造語	接尾	接頭	名詞○	接尾	接尾	接尾	名作選・市長選・三選をめざす	
28	～料	りょう	K 4	造語	名詞×	名詞×	造語	接尾	接頭	接尾	接尾	接尾	接尾	調味料・観覧料	
29	～キラー	キラー	G 4	造語	造語	—	造語	名詞○	接頭	名詞○	接尾	接尾	接尾	巨人キラー・マダムキラー	
30	亡～	ぼう	K 4	接頭	接頭	▽	造語	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	亡祖父	

No.	非自立形態	よみ	種度	三	新選	三例	集英	学研	講談	広苑	旺文	現例	日国	語例
31	急～	きゅう	K 3	造語	名形動	名形動	造語	名形動	●	名詞○	名形動	名形動	語素	急停車・急カーブ
32	贈～	ぞう	K 3	造語	接頭	接頭	造語	名詞○	名詞○	●	▽	▽	語素	贈正二位
33	離～	り	K 3	造語	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞×	●	●	語素	離日・離米
34	アフター～	アフター	G 3	名詞○	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	アフター・アフターサービス
35	ブライダル～	ブライダル	G 3	造語	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	ブライダル・ブライダール
36	～はぐれる	はぐれる	W 3	造語	動詞○	接尾	動詞○	接尾	動詞○	動詞○	動詞○	動詞○	動詞○	乗りはぐれる
37	～割り	わり	W 3	造語	接尾	接尾	名詞○	名詞×	名詞○	名詞○	名詞×	名詞×	名詞×	へや割り・紙面割り
38	～んち	んち	W 3	接尾	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	ぼくんち・青木んち
39	～以内	い	K 3	造語	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	十日以内
40	～鉾	こう	K 3	造語	接尾	接尾	造語	接尾	接頭	名詞○	●	●	語素	同和鉾・第一鉾
41	～所	じょ	K 3	造語	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	案内所・研究所
42	～値	ち	K 3	造語	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	平均値・目標値
43	～イズム	イズム	G 3	造語	名詞×	名詞×	名詞×	名詞×	名詞×	名詞○	接尾	接尾	語素	処世イズム・佐藤イズム
44	同～	どう	K 3	造語	名詞○	名詞○	造語	接頭	連体詞	●	▽	▽	名詞○	同県・同時刻
45	サマ～	サマ	G 2	名詞○	造語	名詞×	造語	名詞○	名詞×	名詞○	名詞×	名詞○	名詞○	サマ～ウール・サマースクール
46	チルド～	チルド	G 2	名詞○	造語	造語	造語	名詞○	名詞○	名詞○	名詞○	名詞○	名詞○	チルド輸送・チルドビーフ
47	～尻	じり	W 2	造語	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	川尻・沼尻・ふくろ尻・ことば尻・帳面尻があわない
48	～チック	チック	G 2	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接頭	名詞○	●	●	語素	漫画チック・おとめチック
49	～レス	レス	G 2	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接頭	名詞○	●	●	語素	エンドレス・スパイクレスタイヤ
50	～酒	さか	W 2	造語	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	酒だる・酒太り
51	吹～	ふ	W 1	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	接頭	名詞○	●	●	語素	ふっ切れる
52	三連～	さんれん	K 1	造語	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	三連星・三連勝
53	ベンチャー～	ベンチャー	G 1	造語	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	ベンチャー企業・ベンチャー株
54	～頭	あたま	W 1	造語	名詞×	名詞×	名詞×	名詞×	名詞×	名詞○	名詞×	名詞○	名詞○	ひとり頭・万円を支給した
55	～コン	コン	G 1	造語	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	国際コン・生コン・エアコン・ラジコン・パソコン・ツアコン・マザコン・駅コン・合コン・ミスコン・ボディコン・シスコン
56	～サラ	サラ	G 1	造語	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	安サラ・脱サラ
57	～テク	テク	G 1	接尾	接尾	接尾	接尾	接尾	接頭	名詞○	●	●	語素	ギター・テク・財テク
58	～パン	パン	G 1	造語	造語	造語	造語	造語	接頭	名詞○	●	●	語素	トレパン・ノーパン
59	～フェース	フェース	G 1	名詞○	造語	造語	名詞○	名詞○	名詞○	名詞○	名詞○	名詞○	名詞○	ボーカー・フェース・ニューフェース
60	～メール	メール	G 1	名詞×	造語	造語	名詞×	名詞○	名詞×	名詞○	名詞○	名詞○	名詞○	ダイレクトメール